

● 第4回Japan Weekを開催

EU諸国とともに日本のメディア文化を考える



国際シンポジウム「日本メディア文化～グローバル化とガラパゴス化の狭間で」



関西大学日本・EU研究センターでは毎年、ベルギー・ルーヴェン大学において国際シンポジウムを実施するとともに、隔年で「Japan Week」を開催している。本年度は第4回目にあたり、11月5日から7日の3日間にわたってセレモニーや学生交流イベント、国際シンポジウム等のプログラムを実施した。

国際シンポジウムは「日本メディア文化～グローバル化とガラパゴス化の狭間で」と題し、内向きでガラパゴス化しているとも言われている日本社会が、国外で発見された「日本らしさ」をもとにグローバル化し、新たな「日本らしさ」を構築しつつある事態について、活発な議論が展開された。続くワークショップも、同テーマで本学およびルーヴェン大学の大学院生らが発表報告会を実施した。

オープニングセレモニーと学生交流イベントでは体育会日本拳法部が演武と実戦を披露し、「ヨーロッパ人から見た日本人」を意識した渾身のパフォーマンスに感嘆の声が上がった。また、本学学生が制作した映画『マイホーム』をはじめとする「地方の時代」映像祭入選作品3作を上映。ルーヴェンとその近隣都市の市民、ルーヴェン大学の学生や教職員等が多数参加し、盛大なイベントとなった。



開会式で挨拶をする吉田栄司国際部長 ワークショップでの発表報告会

第1回国際交流フェスティバル「せんぱく」を開催

多文化・多世代共存で、北摂地域を活性化



20以上のブースが並んだ「せんぱく」会場



交流・体験ゾーンでは来場者が世界の文化を楽しんだ

関西大学・大阪大学連携による文部科学省委託事業「H.O.M.E. (Harmonic Osaka Multicultural Environs) 千里交流拠点」では、留学生に対する就職支援や宿舍支援、交流支援を行い、留学生の力を生かした街づくりに取り組んでいる。その一環として、10月20日、昨年で誕生50周年を迎えた千里ニュータウンの活性化を目的とする住民参加型の国際交流フェスティバル「千里万国博覧会(通称:せんぱく)」が、関西大学南千里国際プラザ南広場において初めて開催された。

当日は、留学生や日本人学生、地域住民、在日外国人によるステージショーが行われ、ダンスや楽器演奏等、各国の伝統文化を披露。本学の応援団リーダー部とバトン・チアリーダー部がオープニングを飾り、会場を大いに盛り上げた。また、交流・体験ゾーンには各国料理の販売や異文化紹介、異文化体験のブースが20以上並び、来場者はさまざまな国のお茶やお菓子を味わい、民族衣装の試着や工芸品作り、世界の遊び等を楽しんだ。

大規模避難訓練を今年も実施

関大防災Day2013 —広がれ！みんなの安全・安心！—



日本赤十字社大阪府支部・木村弘之救護係長を迎えて開催された防災講演会

関西大学では、毎年秋に各キャンパスで「関大防災Day」を実施している。今回は10月17日、千里山・高槻・堺の3キャンパスで同時に開催され、学生・教職員ら約1万人が、地震避難訓練および安否確認訓練に参加した。

千里山キャンパスでは防災講演会も開催され、日本赤十字



(左)地震避難訓練の様子 / (右)安否確認シートに書き込む学生

社大阪府支部の木村弘之救護係長が「救護活動時の現実」をテーマに講演。赤十字の活動紹介や国際救援など、命を救う活動の現実と課題について語った。

さらに千里山キャンパスでは、近隣連合自治会をはじめとする地域住民の方々と一緒に行う炊出し訓練や、煙体験、避難器具体験、消火器使用・消火栓放水体験、日本赤十字社の協力による応急処置等簡易体験、水害時避難訓練、防災啓発ブースの設置なども実施され、災害に対する意識をさらに高める一日となった。

また、高槻ミュージックキャンパスでは、初等部・中等部・高等部を含めた避難訓練を11月11日に実施した。

● 関西大学協賛の「第3回大阪マラソン2013」開催

関大生のボランティアが活躍



1・2 チームワークで対応した給水ボランティア
3・4 大会を盛り上げたダブルダッチ「Mix Package」
とJazz研究会 / 5 チャリティ募金ボランティア /
6 声援を送る応援団の学生達

10月27日、今年で3回目となる「大阪マラソン2013」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)が開催された。沿道には125万人が詰めかけ、15万1410人の応募より選出された3万人あまりのランナーに声援を送った。

関西大学は第1回目から協賛団体として大会運営に協力し、地元「大阪」を盛り上げるためにさまざまな形で貢献してきた。今大会も給水ボランティアとして420人の学生が5km地点の給水所を担当。ランナーが給水カップを確実に受け取れるよう万全の態勢で臨み、抜群のチームワークで対応した。

沿道では応援団バトン・チアリーダー部などの学生が声援を送り、ダンスサークル「Belly Divas」やダブルダッチ「Mix Package」、Jazz研究会などが大会を盛り上げたほか、総合案内所では英語と中国語に精通した合計16人の語学対応ボランティアが外国人ランナーらの問い合わせに対応。昨年に続き、チャリティ募金ボランティア活動も行い、チャリティマラソンという大会精神のアピールにも貢献した。沿道から熱い声援を受けた関西大学特別枠で参加したランナー18人は、本学オリジナルウェアを着用し力走した。

また、大会直前の25、26日にインテックス大阪で開かれた「大阪マラソンEXPO2013」では、人間健康学部の教員・学生らが「インターバル速歩」を紹介し、来場者に好評を博した。